

下刈作業の機械化を民有林へ

上川北部森林管理署

(上川郡下川町)

【はじめに】

上川北部森林管理署は、道北の内陸部、上川北部流域2市5町1村に広がる約164.1千ヘクタールの国有林を管轄しています。

【地域の課題】

戦後に造成された人工林は本格的な利用期を迎え、伐採量の増加とともに再び植栽を行わなければならない面積が拡大しています。しかし、林業における作業従事者は、高齢化が進むと同時に新規就労者の確保も難しく、担い手不足が差し迫った課題の一つとなっています。

また、苗木の植栽後には下刈作業が必要となりますが、その作業は、夏期の炎天下の中で肩掛け式刈払機を使用する「過酷」な作業と言われ、就労者の確保を妨げる要因にもなっています。

【課題解決に向けた取組】

① 現地検討会

北海道森林管理局では、造林作業の効率化・軽労化に向けた取組として、8年前から様々な実証試験を行い、苗木の成長の違いなどを検証した上で、植栽の間隔や植え方を決め、昨年度から発注する請負事業において、機械による下刈りを取り



下刈機械のデモンストレーション

入れました。

また、北海道においても「スマート林業」の実現に向け、クリーンラーチやコンテナ苗の活用、造林作業の機械化などの取組を進めています。

一方、一般民有林における機械化は進んでいないことから、民有林関係者を対象とした現地検討会を当署・下川町・上川総合振興局北部森林室の共催により、下川町有林において開催し、機械の操作性・機動性についてのデモンストレーションや操縦体験を行いました。その後のアンケート結果から、機械化は必要との意見が多かったものの、課題として挙げたのが「伐採後の木の切り株の処理」、「苗木の植栽の間隔」でした。

② フォローアップ意見交換会

上記の課題解決に向けフォローアップ意見交換会を開催しました。「国有林・北海道・町」が各機関の取組成果を紹介し意見交換を行いました。



【今後の取組】

下刈機械の導入に向けた検討をしている事業者や自治体に対して、先行導入した国有林が実績に基づいた情報を継続して広く発信し、民有林への普及拡大に努めていく考えです。